

## 企画展 焼絵 茶色の珍事

Pyrography : Brown Strange Things

会期：2026年4月28日（火）～5月31日（日）



### 報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」広報担当

TEL：06-6210-3766 FAX：06-6210-4190 Email：n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

## 開催概要

「焼絵」とは、火筆画や焦画、烙画などとも呼ばれ、熱した火箸や鑊を紙や絹などに押し当て、絵画や文字を焦がして表現する技法を用いた作品です。色調は茶から黒に近い色まで展開し、また線描から点描、濃淡といった水墨画の技法も巧みに再現されています。

江戸時代には、優れた焼絵を数多く手掛けた稲垣如蘭こと近江・山上藩（現在の東近江市）の第五代藩主稲垣定淳（1762 - 1832）をはじめ、藩主や家老クラスの間でこの技法が流行しました。少ない材料で制作可能な点から、根底には質素儉約を推奨する時世を反映しているとも推測されます。一方、葛飾北斎の弟子とされる北鼎如蓮（生没年未詳）のような浮世絵師にも焼絵の名手が現れ、さらには狩野派の特徴を有する作例も確認されています。技法の特殊さから作例は多くはないですが、一部の間では試みられていた様子がうかがえます。また、大田南畝と来船した中国人との間で焼絵談議が行われ、朝鮮通信使を介し烙画が紹介されるなど、焼絵を通じた国際交流も行われました。

本展では、これまでほとんど紹介されることのなかった焼絵について、日本をはじめ朝鮮と中国、現代の焼絵作品を展覧し、その美と制作背景を探ります。

## 基本情報

展覧会名 企画展 「焼絵 茶色の珍事」

Pyrography : Brown Strange Things

会 期 2026年4月28日（火） - 5月31日（日）

開館時間 10：00 - 17：00 ※入場は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日、5月7日※ただし、5月4日（月・祝）は開館

主 催 毎日新聞社、公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

拝 観 料 一般 1,600 (1,400) 円、高大生 800 (600) 円、小中生 400 (200) 円

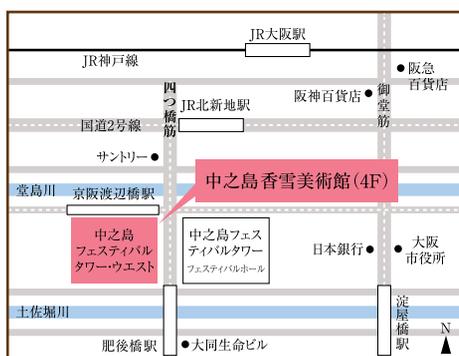
※（ ）内は前売り・20名以上の団体料金

前 売 券 2026年2月1日 - 4月27日

公式 HP（オンラインチケット）、中之島香雪美術館、

フェスティバルホール・チケットセンター（※10時～18時）主要プレイガイド、

コンビニエンスストア、チケットぴあ（Pコード：687-403）、ローソンチケット（Lコード：55918）にて販売



◎Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」駅4号出口、

京阪中之島線「渡辺橋」駅12号出口直結

◎JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約15分

◎Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅7号出口

より徒歩約8分

◎JR東西線「北新地」駅11-5出口より徒歩約8分

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4

中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階

TEL:06-6210-3766

## 見どころ

---

# ほぼ茶色一色の世界へようこそ！！

### 一、日本初？！焼絵の展覧会

紙や絹などを焼いて、焦がして、絵や文字が表現できるなんて、あまり想像できないかもしれません。しかし、日本の記録上では平安時代末期まで遡り、実際の作品としては江戸時代（18世紀）以降に見られます。江戸時代でも「いといと珍らかにこそ（非常に珍しいことである）」といわれるほど、なじみがない稀な技法であったようです。そのため、これまでまとめて展示されることがありませんでした。本展は日本初！！焼絵をテーマとした展覧会です。しかも、日本の江戸時代の作品だけではなく、朝鮮の19世紀以降、中国の18世紀以降、さらに現代の焼絵の作品が一堂に会します。まさに、いといと稀な展覧会です。

### 二、焼いて描く緊張感

焼絵は文字通り、素材となる紙や絹、木、竹を焼いて絵や文様を表現します。そのため、素材は熱によって変質し、最悪の場合穴があきます。焦がした場所は当然もろくなっていますので、経年による劣化のダメージも受け易くなります。作品によっては焦げた部分に穴があき、それが魅力になっているものもあります。また、道具として熱した金属や線香などを使用するため、暑い中での作業となり、火傷することもあるかと思われます。筆や刷毛などを使って描く一般的な絵画技法とは違った緊張感があるでしょう。

### 三、地味？だけど滋味深い

焼絵は焦がして描くため、基本的に色は茶色で、正直地味です。一見奥行きや立体感が出せそうにありませんが、そうでもありません。熱の伝わり方を調整することによって、淡い茶色から黒に近い焦げ茶色まで、江戸時代には48色の茶色が存在するともいわれるほど、濃淡の幅を持たせることができます。また、火箸や鑊などの金属製の道具を用いるため、いわゆる「エンボス」加工、圧力による凹凸により、奥行きや立体感を出すことが可能です。とはいえ、素材を傷つけない程度に焦がして表現しないとイケないため、どうしても淡い表現になりがちです。是非目を凝らして、茶色の滋味深い「うまみ」を味わってください。

## 章解説・広報用画像一覧

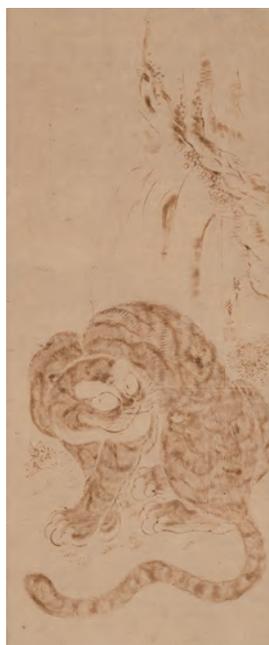
### 第一章 日本の焼絵

日本の焼絵は平安時代末期にはあったといわれていますが、長らく忘れ去れて、技術が途絶えていました。  
古を追慕する機運が高まった江戸時代後期に焼絵は復活を果たします。

江戸時代の焼絵を牽引していたのが、近江・山上藩（現在の東近江市）の藩主であった稲垣定淳（如蘭、<sup>じょらん</sup>1762 - 1832）です。そのほか、浮世絵師の白峨（<sup>はくが</sup>生没年未詳）や北鼎如蓮（生没年未詳）も焼絵を手がけました。焦がして描く個性豊かな作品の数々は、当時の知識人たちを魅了したことでしょう。



① 如秀「亀図」江戸時代（十八～十九世紀）  
彌記繪菴



② 晴山「虎図」江戸時代（十八～十九世紀）  
彌記繪菴



③ 蘭旭「梅鶴図」安政三年（一八五九年）  
彌記繪菴



④ 北鼎如蓮「鱒図」江戸時代（十九世紀）  
村上コレクション



⑤ 白峨「達磨図」江戸時代（十九世紀）  
彌記繪菴

## 第二章 朝鮮の烙画<sup>らくが</sup>

朝鮮では焼絵を「烙画」などと呼びます。16世紀後半ごろには始まったといわれますが、現存作例は主に19世紀以降に制作されたものです。作品の多くを手がけた朴秉洙<sup>パクビョンス</sup>（1858 - ?）は、烙画の大成者朴昌珪<sup>パクチャンギョ</sup>（1783 - ?）の親戚にあたり、この朴氏のほかに白氏<sup>ペク</sup>によっても技術が継承されました。主題としては山水と花鳥が多く、漢詩をともない、深い教養の中で生まれ、鑑賞されたと考えられます。



⑥ 作者不詳「花鳥図」朝鮮時代以降（二十世紀） 個人蔵



⑦ 白南哲「芦雁図」朝鮮時代以降（二十世紀） 彌記繪菴



⑧ 作者不詳「花鳥図」清時代（十八〜十九世紀） 彌記繪菴



⑨ 沈達「西王母図」 中華民国八年（一九一九年） 村上コレクション

## 第三章 中国の火画<sup>ひが</sup>

中国の焼絵のはじまりは宋から明時代、あるいはより古いと推測されますが、詳細は不明です。作品は多くなく、実態も明らかではありません。中国では「火画<sup>こうが</sup>」「香画<sup>こうか</sup>」「燙花」と呼ばれていました。ここでは、国内に伝わる数少ない中国で制作されたとみられる作品を紹介します。

## 第四章 焼絵のいま、これから

明治時代に入り、欧米からの電気式焼絵器械が日本に導入され、日本の焼絵は装飾的な工芸品としての傾向を強めました。今日焼絵技法は、「パイログラフィー」「ウッドバーニング」の用語で世界に広がり、多様な表現を可能としています。本展では、現代において活躍している2人の作家、辻野榮一<sup>つじのえいち</sup>と猫野ぺすか<sup>ねこの</sup>をご紹介します。



⑩ 辻野榮一「Swaying Hands」 2025年 作家蔵

## 関連イベント

---

### ■ 記念講演会

演題:「朝鮮通信使も見た日本の焼絵」  
講師:片山真理子氏(東京藝術大学古美術研究施設助教)  
日時:5月16日(土)14時~15時30分  
会場:中之島会館(中之島香雪美術館隣)  
参加料:500円(展覧会観覧には別途入館料が必要)  
定員:280名(事前申し込み・先着順)  
受付開始:2026年2月15日(日)  
※天候等の状況により中止の可能性があります

講演会の応募はこちら↓



### ■ 学芸員によるギャラリートーク

日時:5月1日(金)、15日(金)、29日(金)いずれも17時より30分程度  
場所:展示室内  
参加料:無料 ※入館料が必要です。

### ■ 夜間特別開館

日時:5月1日(金)、15日(金)、29日(金)  
時間:10時~19時30分(入館は19時まで)

### ■ こども無料DAY

開催日:5月5日(火・祝)  
小学生~大学生まで入館無料!(保護者は有料)  
この日はおはなしも、笑うのも、泣くのもOK!※ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします  
※学生証をご提示ください

ご希望の作品に✓をつけてください。

<input type="checkbox"/>	① 如秀「亀図」江戸時代（十八～十九世紀）彌記繪菴
<input type="checkbox"/>	② 晴山「虎図」江戸時代（十八～十九世紀）彌記繪菴
<input type="checkbox"/>	③ 蘭旭「梅鶴図」安政三年（一八五九年）彌記繪菴
<input type="checkbox"/>	④ 北鼎如蓮「鱒図」江戸時代（十九世紀）村上コレクション
<input type="checkbox"/>	⑤ 白峨「達磨図」江戸時代（十九世紀）彌記繪菴
<input type="checkbox"/>	⑥ 作者不詳「花鳥図」朝鮮時代以降（二十世紀）個人蔵
<input type="checkbox"/>	⑦ 白南哲「芦雁図」朝鮮時代以降（二十世紀）彌記繪菴
<input type="checkbox"/>	⑧ 作者不詳「花鳥図」清時代（十八～十九世紀）彌記繪菴
<input type="checkbox"/>	⑨ 沈達「西王母図」中華民国八年（一九一九年）村上コレクション
<input type="checkbox"/>	⑩ 辻野榮一「Swaying Hands」2025年 作家蔵
<input type="checkbox"/>	⑪ 展覧会ポスター

御社名 (ご担当者名)

---

TEL FAX

---

貴媒体・番組名

---

掲載予定日

---

E-mail

---

チケットプレゼント用招待券 希望する（5組10枚） 希望しない

---

住所（チケット送付先） 〒 -

---

備考

---

**【画像使用に際してのご注意】**

- ・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いします。
- ・原稿および記事については、確認のため、掲載前に広報担当宛にお送りください。
- ・掲載・放送後は、掲載誌等の送付をお願いします。
- ・ご使用の際は、必ず「作者名」「作品名」「制作年」「所蔵元」を記載してください。
- ・画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます（会期終了まで）。

以下フォームからも  
申請いただけます。↓

